

## 執筆者紹介

## 浅井 敦

Asai Atsushi

一九三一年生まれ。愛知大学名誉教授。中国法。『現代中国法の理論』『中国憲法の論点』『中国の刑法と刑事訴訟法』(共編著)

## 張 晋藩

Zhang Jinfan

一九三〇年生まれ。中国政法大学終身教授。博士生導師。中国政法大学法律史学研究院名誉院長。中国法制史。『中華法制文明的演進』『中国法律の伝統与近代転型』『中国憲法史』

## 季 衛東

Ji Weidong

一九五七年生まれ。上海交通大学法学院教授。法社会学、比較法学。『超近代の法』『中国的裁判の構図』『憲政新論』

## 劉 思達

Liu Sida

一九八〇年生まれ。ウィスコンシン大学マディソン校助教、上海交通大学法学院特別研究員。法社会学、職業社会学。『失落的城邦——当代中国法律職業変遷』『割据的邏輯——中国法律服務市場的生態分析』

## 翟 国強

Zhai Guoqiang

一九七九年生まれ。中国社会科学院法学研究所副研究員。憲法学。『憲法判断の方法』『違憲判決の形態』『憲法権利的価値根基』

## 櫻井 次郎

Sakurai Jiro

一九七二年生まれ。関西大学法学研究所研究員。中国法、中国政治。「中国環境規制法の課題—汚染賦課金(排污費)の法的性格に関する分析を通して」『中国における環境汚染被害とその救済の現状』

## 森 啓太

Mori Keita

一九八一年生まれ。弁護士法人曾我・瓜生・糸賀法律事務所。弁護士。中国法。「中国法令速報(第一四三回、第一四六回)」

## 小嶋 明美

Kojima Akemi

創価大学法科大学院教授。民事訴訟法。『現代中国民事訴訟法』『現代中国の民事裁判—計画から市場へ、経済改革の深化と民事裁判』『職権探知主義の規整—中国民事訴訟法を素材として』

## 趙 正群

Zhao Zhengqun

一九五三年生まれ。南開大学法学院教授。憲法、行政法、人権、訴権および知情権。「得

知権理念及其我国的初歩実践」「行政判例研究」「信息法概論」(主編)

## 張 紅

Zhang Hong

岡山大学法学部教授、中国弁護士。中国企業法、民商法、比較法。「証券をめぐる裁判例」「国外企業社会責任の理論与实践」「企業の社会的責任に関する日米中の法制について」

## 小口 彦太

Koguchi Hikona

一九四七年生まれ。早稲田大学法学学術院教授。中国法。『現代中国法』(共著)『現代中国の法と裁判』『中国法入門』(共著)

## 雷 啓立

Lei Qili

一九六三年生まれ。中国華東師範大学伝播学院教授兼副院長。中国近現代文学および出版史研究、中国当代メディア文化研究。『苦境故事—周作人伝』『伝媒的幻象—当代生活与媒体文化分析』『在呈现中建构—伝媒文化与当代中国人精神生活研究』

## 三須 祐介

Misu Yusuke

一九七〇年生まれ。広島経済大学経済学部准教授。近現代中国演劇、中国語圏文学。「曲から劇へ—上海滬劇社という経験」「クイアな、蟬の、声—林懷民の「同志小説」を読む」

「清末上海の遊興空間、夜花園―真夏の夜の楽園」

印南 敏秀 Imanami Toshihide

一九五二年生まれ。愛知大学地域政策部教授。生活文化学。「雲南の生活空間と食文化」『京文化と生活技術』『里海の生活誌』

森 正夫 Mori Masao

一九三五年生まれ。名古屋大学、愛知県立大学名誉教授。中国明清史。『李大釗』『森正夫明清史論集』『明代江南土地制度の研究』

磯部 美里 Isobe Misato

一九七四年生まれ。名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程。中国文化人類学（出産研究）。「継承する身体、順応する身体―中国・西双版纳タイ族の名付け式における「祝詞」を事例として」「産褥期の食物禁忌からみる身体管理―中国・西双版纳タイ族を事例として」「出産の変容とジェンダー化―中国・西双版纳タイ族における男性産婆の事例から」

萩野 敦司 Hagino Atsushi

一九七四年生まれ。弁護士。一九九八年司法研修所入所（五二期）。現在、ロンドン大学クイーン・メアリー校大学院にて国際ビジネス

ス法を専攻。「中国労働契約法の実務」（共著）、「中国法令速報（第一〇二回、第一一一一回）（第一四一回は隔回担当）」

吉川 剛 Yoshikawa Tsyoshi

一九六四年生まれ。愛知大学現代中国学部准教授。中国法。『法治の理想と現実』（共訳）、「中国司法改革の困窮と道程」（共訳）、「中国の裁判制度（翻訳）」現代中国法研究におけるデジタル情報の活用」

## 翻訳者紹介

都築順子 Tsuzuki Junko

野口 武 Noguchi Takeshi

萩原有里 Hagiwara Ari

小笠原 淳 Ogasawara Jun

## 学会通信（二〇二一年一月～二〇二一年八月）

### ◎学会員活動

川村亜樹「グラフィティのテロリズム―二つの Bank と Banksy」（『ユリイカ』八月号）、青土社）、「亡霊たちがもたらす危うい生―Don Delillo 小説における自己充足的空間の瓦解」（学会発表、アメリカ学会第四五回年次大会、於東京大学、二〇二〇年六月四日）、「メタフィクションとしてのテロリズム小説―Paul Auster の *Man in the Dark* における生権力の痕跡」（学会発表、日本アメリカ文学会中部支部例会、於愛知淑徳大学、二〇二〇年六月一日）

黄英哲「台湾映画表象の現在―可視と不可視のあいだ」（共編、あるむ、二〇二一年七月）

高明潔「西部大開発における『開発援助関係』に関する試み―寧夏・内モンゴルを例として」（論文、『西部大開発をめぐる日中共同の実証的研究』平成二〇年度～平成二二年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書、研究代表者古澤賢治、二〇二〇年三月）『The Prairie Revelation in the Representation of the 20th Century Mongol（国際シンポジウム報告）The Fourth Inter-